

# 心なまふや版



今日の天気



## 広めよう減・減栽培

深谷市で「農業者の集い」  
優良事例聞き理解深める



減農薬資材の展示紹介に見入る参加者

【ふかや】農業・化学肥料を減らすには「をテーマに、県大里農林振興センター、深谷市輸入農産物対策協議会はこのほど、同市内の藤沢生涯学習センターで「農業者の集い」を開いた。大里郡内の農家、JA、市町や農関係者ら約百人が参加した。

集いでは、県農林総合研究センターの橋本光司至長が「農薬を減らすポイント」と題して講演。橋本室長は「日本の農薬使用基準の厳しさは、世界に誇れる。使用基準を守り、耕種的防除など組み合わせる工夫も必要」などと話した。

優良事例では、JAふかや本郷支店野菜部会が、減・減栽培（県認証の減農薬・減化学肥料栽培）したアロココリーやトウモロコシの販売経過と、流通コストを削減した通いコンテナのことを発表。同JA川本支店葱部会の吉田幸雄会長が、減・減栽培したネギの栽培経過や販売実績を報告。妻沼町農業経営者協議会長の島清会長が、地域で取り組む減・減栽培した米の取り組みと販売経過を発表した。

江南町でアロココリーを栽培する参加者の女性らは「農薬を減らすだけでなく、環境保全や農薬に依存しない防除技術は勉強になった。早速試したい」と話し、減農薬に理

解を示していた。会場には生物農薬や天敵資材、フェロモン剤、粘着板なども展示し、時代が求める安全な野菜作りの必要性を訴えた。